

令和8年生駒市教育委員会第7回定例会会議録

1 日 時 令和8年7月21日(火) 午前9時30分～午前10時29分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 審査事項

- (1) 報告第16号 令和8年生駒市議会第5回(6月)定例会提出議案の結果について
- (2) 議案第25号 令和8年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について
- (3) 議案第28号 生駒市いじめ防止等対策審議会委員の委嘱について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員 (教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	吉 尾 典 子
委 員	友 岡 清 一	委 員	水 谷 雅 美

5 事務局職員出席者

教育部長	松 田 悟	生涯学習部長	南 口 嘉 子
教育部次長	山 本 英 樹	学校給食センター所長	桐 坂 昇 司
教育総務課長兼務		学校支援課長	花 山 浩 一
幼保こども園課長	松 田 美奈子	幼保こども園課指導主事	長 崎 文
幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美	児童総務課長	知 浦 太 一
生涯学習課長	甫 田 和佳子	図書館館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	中 川 芳己江
学校支援課課長補佐	中 田 博 久	教育政策室長	杉 山 史 哲
幼保こども園課課長補佐	澤 辺 誠	生涯学習課長補佐	堀 口 聖 子
図書館南分館長	中 川 公 子	図書館北分館長	入 井 知 子
生駒駅前図書室長	谷 江 真美子	スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀
教育総務課(書記)	土 井 智 史	教育総務課(書記)	寺 川 寧 々
教育総務課(書記)	上 田 静玲奈		

6 傍聴者 1名

午前 9 時 3 0 分 開会

○開会宣告

○日程第 1 前回会議録の承認

○日程第 2 教育長報告

・教職員の夏期研修について、花山学校支援課長から説明
(質疑)なし

○日程第 3 報告第 1 6 号

・令和 8 年生駒市議会第 5 回 (6 月) 定例会提出議案の結果について、山本教育部次長から説明
<参照：議案書 p 1 >
(質疑)なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第 4 議案第 2 5 号

・令和 8 年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、松田教育部長から説明
<参照：議案書 p 2、別冊 1 >
(質疑)

吉 尾 委 員:例年評価に携わってきたが、評価の記載が年々分かりやすくなっていると実感している。課題と活動方針がそれぞれの項目の最後に挙げられており、内容も明確に示されている。客観的・総合的に見た意見が示されているので、この内容を参考に次年度も取り組んでもらえたらと思う。一方で、評価表の中に、実績評価、実績成果の欄など、似た名称が複数あり、記載内容の違いが分かりにくい。実績評価の欄は、客観的な事実や成果を分析して記載する欄であると捉えている。「評価」の欄は、S A B C で評価をした根拠を記載する欄だと理解している。しかし、報告書では実績欄に評価、評価欄に事実のみを記載するなど、内容が混在している場合がある。全課で共通理解を図ることで、来年度以降の評価の統一性にもつながると考える。生駒市教育大綱の理念では、『自分らしく「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう』が基本に掲げられ、このことは年齢を問わず何に対しても「知りたい・やってみたい」という好奇心をもって取り組むことで豊かな人生につながると考える。そのことを念頭に今後も事業を計画いただきたい。

飯 島 委 員:報告書について、年々良いものとなっている。その上で、業務における入札不調や遅延といった不測の事態に備えて事前に準備をすることも必要であ

る。また、講師の不足や教員の時間外労働について、時間外労働者数を30人以下にするという数値的な目標があるが、長期的な目標と単年度の目標を作成するのも一手だと思われる。数値的な達成度は満たさないが、内容の改善ができたという理由でA評価としても、理解を得るのは難しいだろう。そこで、目標数値を満たさない時にはB評価としつつ、必ず実現できるような目標を設定し、毎年継続することで状況や課題も改善していくと考える。次年度以降、評価や目標の立て方について検討いただけたらと思う。

原井教育長:数値的な目標設定について、基準を設定することの難しさはあるが、単年度または長期的な目標を組み合わせることも今後検討していきたい。

水谷委員:今年度初めて点検評価に参加をしたが、生駒市教育委員会の施策を一覧で確認できたことは非常に有意義であった。生駒市の各教育施策の流れや各学校が重点的に取り組む施策、各課の連携状況も一覧から明確に読み取ることができ、全体像を理解することができた。数値化された指標は、一般市民にも分かりやすく施策の進捗を客観的に示す上でも有効であるため、今後も経年比較を行いながら継続的に数値を追っていくことが重要である。また、数値では示しきれない質的な取組における内容の把握も不可欠である。例として、先日訪問した幼稚園の「架け橋期のカリキュラム」は、幼稚園、小学校、中学校が連携して内容を構築しており、教育の質の向上に関する取組として非常に価値があると感じた。このような、連携による取組による成果を、数値的評価と併せて評価していく必要がある。

原井教育長:質的な評価について、自己評価の際に何を基準に達成とするかが判断しづらいことから難しさもある。数値的評価は比較的明確で、経年比較を行うことで施策の進捗が把握しやすい。一方で、質的評価は数値では示しきれない取組の深まりや連携の状況を捉えることが必要なため、評価の観点が重要である。本日いただいたご意見は、質的評価の整理にあたって参考になるため、今後の検討に活かしていきたい。

飯島委員:教育系ネットワークの本格的運用について、学校の内外を問わず教職員があらゆる場所からネットワークに接続できると認識している。これは、自宅からもアクセスが可能であるということか。また、教員の持ち帰り仕事ができるようになっているのか。どこからでもネットワークにアクセスが可能ならば、残業時間の減少と引き換えに持ち帰り仕事が増加することにならないよう、教員への配慮も念頭においていただきたい。部活動については、現状生駒市において土日の部活は地域移行で上手く対応できていると聞いている。部活動を単純に地域へ代替えるのではなく、地域全体で部活動を支える枠組みへ転換が必要である。全国では、地域移行後に部活動の人数が減少し、従来活躍していた部活動が消滅した例もあるため、持続可能な仕組みづくりが重要である。学校と地域の双方が混乱なく対応でき

るよう、事前の準備を整えておくことも大切だ。特に、児童生徒の受け入れ体制の構築、役割分担の整理、連携ルールの明確化など、早期に検討を進めておくことが望ましいだろう。

花 山 課 長:教育系ネットワークについて、教員が所有する端末では自宅からもアクセスが可能である。セキュリティに関して、端末を開く際には教員本人の顔認証を必要としている。自宅での作業が可能になった点については、学校に持ち帰り仕事を推奨するものではないと伝達している。

西 課 長:地域クラブについて認定地域クラブ活動という枠組みが国で定められている。しかし、生駒市における地域クラブは、単一種目の地域クラブとは異なる形で運営しており、学校の部活動から派生したものとは分けて考えている。生駒市では地域ごとの人口変動や参加人数の増減により、クラブ運営が困難な場合があることから、地域同士の統合、運営方法の柔軟な調整など、状況に応じた対応を行っている。

原井教育長:今後、平日の部活動の地域移行についても検討していく。

吉 尾 委 員:教育系ネットワークや部活動の地域移行は、教員の働き方改革につながる事業である。働き方改革では教員の勤務時間などについて議論されているが、最終的に子ども達の教育にどう還元されるかが最も重要である。改革によって生まれた時間が研修などに活用されているのかに加え、部活動の地域移行によって教員の負担の変化だけでなく、児童生徒にとって必要な体験や学びが確保されているかも重視すべきである。部活動は学習以外の多様な経験を得られる場であり、地域移行後も児童生徒の体験をどう保障するかが課題である。今後も、働き方改革と地域移行の両面で、子どもの視点を忘れずに取り組んでほしい。

原井教育長:今後も、子ども達のために色々な視点を持って検討をしていきたい。

審議結果 【継続審議】

○日程第 5 号 議案第 28 号

・生駒市いじめ防止等対策審議会委員の委嘱について、花山学校支援課長から説明

<参照：議案書 p 3～5、資料 1 >

(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○その他

・生駒南小学校、生駒南中学校整備事業について山本教育部次長から説明

(質疑) なし

・認定こども園壱分こども園等整備計画について、澤辺幼保こども園課課長補佐から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

吉尾委員:壱分幼稚園の工事について、資料でとても分かりやすく示されている。壱分幼稚園の園長先生から認定こども園になることについて話を伺った際、壱分幼稚園の閉鎖が目的ではなく、子ども達が新設の園でどのように育つのかに目を向ける様子が印象に残った。生駒南小学校・生駒南中学校整備事業についても、工事期間中に現場に足を運ぶことや、工事中に出会った近隣住民に声を掛けることで工事への印象も変わると思う。長期的かつ大規模な工事のため、何が起こるのかは予測不可能だが、丁寧に対応することが必要だと思う。

原井教育長:新しい施設や事業が始まる際に、地域住民や関係者の中には不安や心配が生じやすいため、丁寧な説明と対応が必要だと考えている。生駒南小学校・生駒南中学校や壱分子ども園ともに、地域の理解を得ながら慎重かつ丁寧に進めていきたい。

・屋内プール施設を使用した生駒東小学校プール授業の実施について山本教育部次長から説明

(質疑)

友岡委員:現時点で実施をしたことによる課題は見られたのか。

花山課長:当初、懸念していたのはバスまでの移動や運行である。しかし、当日は地域の方々のサポートがあったことで円滑に運行することができた。また、職員が授業に立ち会ったが、屋内プールで実践することのメリットとして、暑さといった天候に左右されない点、プールに入らない児童生徒が涼しい屋内で待つことで負担が少ない点を再認識することができた。授業時の監視員についても、これまでは学校管理職が立ち会って監視を行っていたが、TACきらめきプールの職員に依頼をして行った。室内の温水プールということで若干声が反響する様子はあったものの、特段大きな課題は見られなかった。

友岡委員:現時点で運営に支障があるような課題は見られていないということか。

花山課長:その通りである。

水谷委員:プール授業の実施において様々な事情で困難なこともあるが、水難事故の増加傾向など、子どもの命を守るための授業である。今後、どこの学校でも生駒東小学校と同じようにプール学習が実施できたらと思う。3～4時間目または5～6時間目の実施といった時間割上限られたコマの実践となることもあると思うが、内容や移動を含め十分に時間を確保できるのか。

山本次長:帰校の時間については、3時間目の終わりには確実に教室に戻ることができる時間帯を設定している。5～6時間目での実施においても、帰りの会の開始時刻の15分前である15時30分に確実に教室に戻ることができるように設定をしている。

吉尾委員:初めての事業を実施する場合には様々な課題が考えられるが、課題が多いことで今後の対策につなげることができる。更衣室での着替えに関しても日々様々な報道がなされている。着替えの際の安全性についても、施設に対して求める必要があると感じている。

原井教育長:今年度の生駒東小学校での実践が、今後のモデルケースになっていくと思われる。いただいたご意見を含め、スムーズな実施について引き続き検討をしていきたい。

・8月事業予定について、山本教育部次長、甫田生涯学習課長から説明

<参照：令和8年8月事業予定>

(質疑)

飯島委員:8月15日(土)に実施される『親子でつくる 生駒の戦争遺跡マップ』のイベントについて、終戦日を知らない子どもが増えているため、終戦日にこうした取組を実践することは非常に価値があると思われる。想定している対象学年は何年生なのか。

西野館長:小学校5～6年生を対象にしている。

飯島委員:完成したものを図書館で展示する予定はあるか。

西野館長:イベントではパソコン上で地図を作成するため、それをどう展示をするのかについて今後検討をしていきたい。

水谷委員:昨年夏に実施された長谷川義史さんのイベントには子育て中の親子を含め幅広い世代が訪れていた。このような取組を継続して実施することが重要であると感じた。

飯島委員:生駒市でWBGTの自動測定器が設置されたことについて、校内に配置された端末で情報を確認できるとのことだが、こうした便利な機器が有効に活用されることを期待している。一方で、機器の数値を過信することなく、教職員自身の体感温度や、児童生徒の様子を丁寧に観察しながら、熱中症予防にしっかり取り組んでいただきたい。地域クラブに関わる指導者についても、熱中症対策に関わる取組を共有し、同様に注意を払っていただく必要がある。これから暑さが本格化すると思われるため、引き続き適切な対応をお願いしたい。

原井教育長:NHKでもこの事業が報道されたが、これまで教育委員会事務局に対して何か意見はあったか。

山本次長:特段大きな意見はないが、学校現場からは従来の測定より数値が高く感じると話を聞いている。これまでは、測定器を室内で保管をし、測定の際に屋

外に持ち出して計測を行っていたため、数値が上昇するまでに時間がかかっていた。しかし、今回導入した機械は屋外に常設しているため、このような感じ方の変化があると考えられる。教員や地域クラブ指導者を含め、児童生徒の様子を見て柔軟に対応していきたい。

原井教育長:手動の測定器は、風が少し吹くだけで数値が変わることもある。機械に頼るだけでなく、児童生徒の様子を見ながら進めていけたらと思う。

○閉会宣告

午前10時29分 閉会